



秋市立小川小学校

小川っ子だより

第10号

平成30年11月16日

お・・思いやりのある子

か・・がんばり続ける子

わ・・わかる喜びを感じる子

【 深まる秋に 思いを寄せて ～教育でより良い成長を～ 】

朝晩がすっかり寒くなりました。車の運転にも“暖房”のスイッチが必要となりました。我が家も、10月末にストーブの使用を開始しました。山々の紅葉が心をいやしてくれています。学校周囲の木々も、葉がすっかり色づき、今では秋風が吹くたびに一枚一枚と散っています。季節が確実に“秋”から“冬”へと移りつつあります。子ども達の服装も、“冬服の上着”“手袋”“長ズボン”等と冬用に衣替えする子ども達が増えてきています。



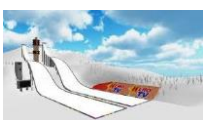
子ども達の学校生活に目を向けると、18日の日曜日に開催される“小川っ子祭り”の仕上げに向け、一生懸命に練習に励んでいます。それぞれの学級で発表する“劇”での自分の役割を果たすと共に、より良い物にしようと話し合いも適宜取り入れながら、取り組んでいます。本気で演じる小川の子ども達の姿を思うと、当日の発表が楽しみです。

ご家族の方ももちろんのこと、ご近所の方を誘って、ぜひ小川小学校にいらしてください。

また、12月2日(日)に開催される“トリムマラソン(校内持久走大会)”に向け、火曜日と木曜日にはランニングタイムを設定し、持久力アップに取り組んでいます。一周でも多くの距離を走ろうという意気込みが、子ども達の姿からも見えます。12月2日は子ども達の有志を見ると共に、応援をよろしくお願いします。そして、子ども達と一緒に走ってみませんか。お待ちしております。

さて、先日函館市で全国連合小学校長研究協議会が開催され、参加しました。その中で、「**レジェンド**」と呼ばれるスキージャンパー **46歳 葛西紀明様** をシンポジストの一人とするシンポジウム(テーマ「ふるさと・挑戦・未来創造」)が行われました。葛西さん達の話に聞き入り、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

以下に、シンポジウムの中で「**レジェンド**」**葛西紀明様** が発した言葉の中で私自身の心に残った内容を紹介します。いずれも、「親」「教職員」「大人」「家族の一員」「子ども自身」として、前向きに生きる上で大切な話ばかりなので一人だけで思っているのはもったいないと思ったのです。



【**記録の向上**】『小さい頃身体が弱く、父親にマラソンをやらされた。体もどんどん強くなり、小学校3年生の時にスキージャンプに巡り合った。始めは怖かったが好奇心の方が強く、だんだん飛距離が伸び、のめりこんだ。』

【**親や先生への感謝**】『運動神経のよさを気付かせてくれたのは学校の先生だった。何かひとつ好きなスポーツを見つけて極めた方がよいとアドバイスをくれた。親や先生に感謝している。』



【**世間からの注目**】『中学校3年生のときにテストジャンパーとして、優勝した選手よりも飛んで、新聞に大きく載ったことから注目を浴び、世界を目指して挑戦する気持ちになった。高1で初めて世界大会に行ったが、世界のレベルの高さに打ちのめされた。努力をし、高2でワールドカップ7位入賞3回。高3でスランプが1年続いたが、母親からの手紙で迷いや焦りが消えた。』



【**妹のために金メダルを...**】『難病と闘う妹のために金メダルを獲りたかったが団体戦で銀メダルだった。家族の死を乗り越えて絶対金メダルを獲ると思っていたが1998年長野五輪には出場できなかった。その時の悔しさとライバルの存在でジャンプを続けることができた。』

【**学びの大切さ**】『中学生の頃から海外遠征をし、高校生以降はワールドカップや合宿で海外を回っていた。身振り手振り外国人選手と仲良くなったが、若いうちに新しいものや言葉をしっかりと学んでおけばよかったと後悔している。先生方は、子どもたちにコミュニケーションのとり方等も教えてほしい。』



【**座右の銘**】『私の座右の銘は「自分の夢は努力で叶える」である。人に言われて努力するのはつらいことだと思う。まず、自分の夢をもって、それを叶えるために努力を続けてほしい。』